

## 『すべてをキリスト中心に』コロサイ3:17-24

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

3:18 妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。

3:19 夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。

3:20 子たる者よ。何事についても両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。

3:21 父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから。

3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

3:24 あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

## ●序論

わたしたちの信仰には必ず生活が伴います。それを、信仰生活と呼ぶのですが、はたしてわたしたちは、クリスチヤンとしての信仰生活をどれほど意識しているでしょうか？ また大切にしているでしょうか？

私たちは、それぞれが、この国の政治と社会、職場、立場の中に置かれて生きています。そしてそこで、信仰者としてあるべき姿を日々思い、積み重ねていっています。信仰生活…その結論は、きょう読みした17節と23節のことばでしょう。

-3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

-3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

今日、それぞれ具体的な立場に置かれた信仰者のあり方について、パウロは言葉にしています。ここに、今にも通じるそれぞれの立場の信仰生活のありさまへのチャレンジが描かれていることを思わずにはいられません。

## ●本論

## I. すべてを主の名によって行う生活とする

たとえば、それは感謝することです。

食前の祈りがその代表例です。

「主イエスによって」ということは、「イエスさまの恵みをいただいて」いることです。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

「主イエスによって」とあるとき、そこに感謝と敬いが伴う生活が生まれます。

実は今日、「妻たちよ」「夫たちよ」「子どもたちよ」「父親たちよ」「奴隸たちよ」「主人たちよ」と呼びかけることで、それぞれの立場で生きる信仰者へ、「主イエスの名によって」なすべきありさまの変革へのチャレンジが語られています。

- 夫と妻との関係については

3:18 妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。

3:19 夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。

これを聞く人たちが、イエスさまを主と仰ぐクリスチャン。そうして「イエスの名によって…」という言葉を心を開いてい聞く人であったからこそ通用することです。

- 同様に父と子どもの関係でも…、子どもに対して、父親に対して、それぞれの立場の人たちに、主イエスの名によってあるべき態度が語られているのです。

- さらには、主人と奴隸の立場でのあり方も語られています。

奴隸がクリスチャンとなったとき、また主人がクリスチャンとなったとき、そこに一つの違う”言葉”が、その関係をおおうようになったのです。

それが、「主イエスの名によって」ということです。

-3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

- 4:1 主たる者よ、僕を正しく公平に扱いなさい。あなたがたにも主が天にいますことが、わかっているのだから。

ここに現代にも通じる、救われた人たちの心に迫る、心に触れる言葉があるのです。

「それが、主イエスの名によって」という言葉です。

あなたにとって「主イエスの名によって」というき姿はどのようなものでしょうか？

-3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

-3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

これは、いわゆる生活指導ではありません。

実にイエスさまが、わたしたちのために人となってあの十字架にかかり、わたしたちの身代わりとなって死なれ、わたしと神さまとの関係を変えてくださったことから生まれる、祝福に覆われた関係への招きなのです。

## II. すべて主に対して仕える生活とする

イエスさまのお言葉です。 マルコ10:42-45

…「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者と見られている人々は、

その民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

10:43 しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

10:44 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕となねばならない。

10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

これもまたイエスさまを救い主として信じる者たちの、「主イエスの名によって歩む歩みのありさまです。それは一言で、「すべての人のしもべとなる」「仕える人である」ということです。

しっかりと耳を傾けるならば、大変なことが言われていると思いませんか？そんなこと想像もつかない…と思う時、イエスさまはご自分の生きざまをさし示されるのです。

10:45 人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」。

人として生きられたイエスさまこそが「信仰生活の模範」です。

イエスさまは、徹底して仕えることで、わたしたちへの愛、神さまへの従順を表わされました。

ピリピ2:5-9(LB)

:5 私たちに対するキリスト・イエスの態度を見なさい。

:6 キリストは神であられるのに、神としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。

:7 かえって、その偉大な力と栄光を捨てて奴隸の姿をとり、人間と同じになられました。

:8 そればかりか、さらに自分を低くし、犯罪人と同じようになって十字架上で死なれたのです。

:9 しかし、それゆえに、神はキリストを高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。

「仕えて生きること、僕として生きること」は、決して敗者、弱い者の生きざまではありません。イエスさまに見るよう、神さまに誠実に生きる、主イエスさまに倣う生きざまです。そしてそこにこそ、尊い報いがあります。

パウロははっきり言っています。

:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

:24 あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

### III. 主にすべての栄光を帰する生活とする

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

「主イエスの名によって」という歩みが、自然体でできればいいのですが、しばしば状況や立場で、疲れを感じことがあるかもしれません。

「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、…」

このことを説明して、〈そのお祈りの始まりから、すべての生活に主の御名の喜び、慰め、祝福が及ぶように…〉という風な表現がありました。

★改めて私たちの信仰の生活はすべて、イエスさまの恵みによって始められ、イエスさまの恵みによっておおわれ、またイエスさまの恵みによって癒され、イエスさまの恵みによって祝福されていくものです。

「主イエスの御名によって」という時、…このことはすべて、「恵み」なのです。主イエスの御名によって、祈りはじめていくとき、だからこそ、そのなすことにはイエスさまが責任をもって面倒を見てくださることを、信じることができます。主イエスさまありき、イエスさまと共に歩んでいただいている人生をわたしたちは生きているのです。

だから、信頼して、主に感謝することができる。「彼（イエスさま）によって父なる神に感謝」できるのです。

イエスさまスタートで始められた信仰生活です。自分が始めたのではありません。だから、どんな時でも「イエスさまのお名前によって」、と祈って進むことができるのです。問題や困難、悲惨さが行く手を阻むように見えるときにも、「主イエスさまのお名前によって」とわたしたちは、その状況の中で感謝し、また祝福し、そしてそこで仕えていくことができます。

最後に)

最も幸いな祈り、それは「主の祈り」です。

わたしたちの思い付きで生まれた祈りでもありません。、イエスさまの側から与えられた、イエスさまの側にある祈りです。

この神さまの御心に適った祈りを祈り続けていくとき、わたしたちは、その神の側から与えられた祈りの祝福を受け取ることができます。

この祈りは、ちゃんと私たちを「イエスさまのお名前のもとにある祝福」へと回復してくれます。 この祈りを携えて、今日も明日も、恵みの中を前進してまいりましょう！